

# 組み系ソフトウェアワークショップ2012

## 日本の組み系開発におけるアーキテクト

～アーキテクトは何を解決するか～

**日時** 平成24年11月7日(水) 13時30分～17時30分

**会場** AP東京八重洲通り 13階Aルーム

〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目10番7号 KPP八重洲ビル

TEL: 03-6228-8109

<http://www.ap-tokyoyaesu.com/info/access.html>

**参加無料** 「参加申込書」により事前に登録をお願いします

**主催** 一般社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA)  
ソフトウェア事業委員会  
<http://www.jeita.or.jp/>

JEITA組み系ソフトウェア開発に関するワークショップも、おかげさまで好評のうちに今年で6年目を迎えました。

日本の組み系ソフトウェア開発の強みは、擦り合わせによる高品質開発にあると言われてきましたが、大規模化・複雑化・短納期化・多機種化の潮流の中で、国際競争力を今後も維持していくことが難しくなっています。

このような状況への対処として、欧米流のアーキテクト設計の導入・強化が注目されており、そのためにアーキテクトが必要であると言われてきました。しかし欧米流の手法を模倣するだけでは却って競争力が損なわれる危険性もあり、今こそ日本の強みを生かすアーキテクト、日本の擦り合わせ型開発に合ったアーキテクトを見出していく必要があると考えており、前回のワークショップでは、日本の組み系アーキテクトとは何かから議論をしました。

そこで、今回のワークショップでは、日本の組み系アーキテクトは何を期待され、アーキテクトは何を解決するべきから始め、ワークショップの参加者とともに日本型アーキテクトについて考えていきます。このワークショップでは、慶應義塾大学の白坂 功准教授の基調講演を皮切りに、富士通の保土原 行彦氏とセイコーエプソンの萩原 豊隆氏によるアーキテクトの事例講演をしていただき、最後に“全員参加104人ワークショップ：徹底議論！アーキテクトが解決すること”と銘打った討論セッションで、参加者全員の方に自由にご意見、ご質問をして頂き、本音の議論を期待しています。

また、参加者からの発言時間を増やし、開発現場からの議論をし、参加者間での共通の理解・合意を目指します。

参加費は無料です。ご関心をお持ちの多くの方にご参加いただきますよう、ご案内申し上げます。

## 参加要領

◆ **定員**：150名（定員になり次第、締め切ります）

◆ **参加費**：無料

参加費は無料となっていますが、参加申込書により事前登録をお願いします。

◆ **申込み方法および申込み先**：

参加申込書に必要事項をご記入の上、  
下記Eメール申込み先宛にEメールで**10月31日(火)迄**にお申し込み下さい。

■ Eメール申込み先：[itt3@jeita.or.jp](mailto:itt3@jeita.or.jp)

お申し込み後、「受付確認メール」を概ね1週間程度で事務局よりお送りいたします。

※「受付確認メール」はコピーのうえ、当日受付にてご提示下さいますようお願いいたします。

◆ **問合せ先(事務局)**：

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) インダストリ・システム部  
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-3

電話：03-5218-1057 FAX：03-5218-1076

Eメール：[itt3@jeita.or.jp](mailto:itt3@jeita.or.jp)

## 会場のご案内



### 交通：

JR「東京」駅 八重洲中央口より徒歩6分

東京メトロ銀座線「日本橋」駅より徒歩5分・「京橋」駅より徒歩4分

都営浅草線「宝町」駅より徒歩4分

## プログラム

13:30

開会の挨拶：

[ソフトウェア事業基盤専門委員会の活動について](#)  
[ワークショップ2012の狙いと課題認識](#)

JEITA ソフトウェア事業基盤専門委員会 委員長  
沖電気工業株式会社 五味 弘 氏

13:45

13:45

基調講演：

[アーキテクト～アーキテクトは何ができるのか？～](#)

アーキテクトは、ソフトウェア開発に限らず幅広いジャンルで活躍できる基本的な能力を持っていると考えられている。本講演では、アーキテクトの持つ能力について、どのように一般化し、活用すればよいのか、その結果どのようなことに活用できるのかについて最新の研究成果を示しながら説明する。

15:00

慶應義塾大学大学院システムデザインマネジメント研究科 白坂 成功 准教授

15:00

事例講演1：

[ソフトウェアアーキテクチャ開発とは](#)

新規開発、派生開発など開発の種類別に、アーキテクチャを維持するためにアーキテクトが気をつけることを事例を元に紹介するとともに、なぜアーキテクチャが崩れていくかを説く。

富士通株式会社 共通開発本部 第一ソフトウェア開発統括部 保土原 行彦 氏

事例講演2：

[アーキテクチャの定義から読み解く、アーキテクトに大切な3つのこと～ソフトウェアの過去と未来、そして現在を作る～](#)

IEEE Std.1471-2000のアーキテクチャの定義には、アーキテクトの振る舞いに関して多くの示唆が含まれる。この定義を読み解いて、アーキテクトに大切な3つのことを弊社の事例を元に紹介する。

16:00

セイコーエプソン株式会社 機器ソフトウェア品質・生産技術部 萩原 豊隆 氏

～ 休憩 ～

## プログラム

16:15

**全員参加104人ワークショップ：**

**徹底議論！アーキテクトが解決すること**

**司会進行：**

ピースラッシュ(株) 山田 大介 氏

**アドバイザー：**

慶應義塾大学	白坂 成功 准教授
富士通株式会社	保土原 行彦 氏
セイコーエプソン株式会社	萩原 豊隆 氏
NPO法人	
組込みソフトウェア管理者・技術者育成研究会 理事	渡辺 登 氏

このセッションは、昨年好評を博しました全員参加のセッションをグレードアップして、“全員参加104人ワークショップ”と題して、参加者全員の方に自由にご意見やご質問をして頂くというセッションです。

有意義で面白いセッションになりますように、組込み系ソフトウェアの開発現場に求められるアーキテクトの定義や役割りを徹底的に議論していきたいと思っております。ご参加の皆さま全員の積極的なご発言を是非お願いいたします。

17:30

**総合司会：** JEITA ソフトウェア事業基盤専門委員会 委員長  
沖電気工業株式会社 五味 弘 氏

※ 都合により講師等が変更になる場合がありますので、あらかじめご了承願います。

**報告書の頒布について** 当日、会場におきまして、ソフトウェア事業委員会の3専門委員会（ソフトウェア事業戦略専門委員会、ソフトウェア事業基盤専門委員会、スマートコミュニティ対応専門委員会）がとりまとめました平成23年度の調査報告書を3冊セットで販売致します。

購入を希望される方は、当日受付でお渡し致します「購入申込書」に必要事項を記載して頂き、報告書をお受け取り下さい。代金につきましては、請求書で指定の銀行へお振込み願います。なお、請求書は、10月31日までにお申し込み頂いた方には、当日お渡し致します。11月1日以降のお申し込みにつきましては、後日発送となります。  
(3冊セット価格：会員 5,250円、一般 10,500円)

- 平成23年度ソフトウェアに関する調査報告書 I (資料No. IS-12-情シ-5)  
我が国IT関連産業の持続的成長に向けた事業戦略に関する調査研究報告書
- 平成23年度ソフトウェアに関する調査報告書 II (資料No. IS-12-情シ-6)  
組込み系ソフトウェア開発の課題分析と提言
- 平成23年度ソフトウェアに関する調査報告書 III (資料No. IS-12-情シ-7)  
スマートコミュニティに関する調査研究報告

なお、上記報告書の詳細は、下記URLのWebページに掲載されていますのでご覧下さい。  
<http://www.jeita.or.jp/cgi-bin/public/detail.cgi?id=461&cateid=6>